九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

バンジャマン・コンスタン『日記』（12）

高藤, 冬武
九州大学大学院言語文化研究院

https://doi.org/10.15017/5371

出版情報：言語文化論究. 13, pp.177-202, 2001-02-28. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

翻訳：バンジャマン・コンスタン『日記』（XII）

Ⅲ 『略日記』

高 藤 冬 武

1805年５月

八日　発信，ネッケル夫人。午餐、ゲ夫人宅、リンゼー夫人一緒す。9. レニョー訪問。2. 我が「日乗」［本日記］断筆。

九日　午餐，コンドルセ夫人宅。発信，ミネット。

十日　4. 午餐，プロスペール［バラント］。来信，デュテルトル夫人。12. 夜，ビョ宅。

十一日　4. 来信，ミネット。2. 午餐，レニョー宅。来信，エアハルト。

十二日　1. 4. 午餐，プーラ夫人宅。シャトーヌフ氏［不詳］。発信，ミネット［スタール夫人］。2. 発信，ルイエット。12.

十三日　4. 2. 午餐，カバニ宅。夜，ゲ夫人宅。11. 来信，デュテルトル夫人。12.

十四日　12. 4. 2. 発信，デュテルトル夫人，ミネット，ガラタン。『聖堂騎士団』［仏の悲劇作家レヌアール作，コメディ・フランセーズでこの日初演］。アラール。カトゥラン夫人。ゲ夫人。来信，デュテルトル夫人。

十五日　12. 発信，レニョー，リンゼー夫人，デュテルトル夫人。レゼルバージュ行，バラント同道。

十六日　プロスペールとレゼルバージュ近辺逍遥散策。来信，父。

十七日　再度逍遥散策。

十八日　パリ復。来信，ミネット，リンゼー夫人。夜，ゲ夫人宅。

十九日　発信，ミネット。来信，リンゼー夫人。小昼餐［déjeuner 初出］，オシェ宅。夜，デュテルトル夫人。12. 2. 来信，レニョー。

二十日　来信，リンゼー夫人。10．12．4．夜，プーラ夫人宅。ゲ夫人。カトゥラン夫人。再び10，しかも今朝よりも強し。

二十一日　4．10．午餐，オシェ及び他の面々と。ヴィレール出立。来信，ミネット。

二十二日　『聖堂騎士団』劇評の筆を執る。4．ゲ夫人訪問。10．来信，デュテルトル夫人。12．午餐，プーラ夫人宅。夜，レニョー夫人宅。

二十三日　4．来信，フーバー夫人。絶望哀れむべし。来信，リンゼー夫人。10．午餐，レカミエ夫人宅。夜，デュテルトル夫人。11．12．

二十四日　発信，ミネット。4．『聖堂騎士団』劇評脱稿［5月26日ピュブリシスト紙にxの署名で載る］。夜，ゲ夫人宅。12．2．来信，ルスラン［1804年11月10日参照］。

二十五日　4．2．午餐，オシェ。夜，ゲ夫人宅。来信，スタール夫人［これまでコンスタン独自の異称〈ミネット〉（＝仏のスタール夫人）或いは〈ビオンデッタ〉（＝悪魔のスタール夫人）の名で記されてきたがこれより〈スタール夫人〉となる］。夜，ゲ夫人宅。来信，スタール夫人。2．2．2．2．2．2．12．12．12．1．

二十六日　発信，スタール夫人。フーバー夫人の友人，ゼッケンドルフ夫人［同名の独の美学者の妻か］。夜，コンドルセ夫人宅。4．2．12．

二十七日　発信，父。4．プーラ，ゲ両夫人訪問。来信，スタール夫人，アルベルチーヌ。2．12．

二十八日　発信，ルースラン。4．2．7．8．12．

二十九日　発信，スタール夫人。2．8．7．12．4，優。終日独居。1．

三十日　発信，フーバー夫人。4，優。夜，リンゼー夫人とゲ夫人宅。10．10．9．1．

三十一日　4．訪問，ゲ夫人。4，可。

1805年6月

一日　発信，スタール夫人。4．午餐，プロスペール。御嬢（おじょう）モンタンシエ［マリー・アントワネットの庇護をうけ「ヴェルサイユ劇場」支配人，革命で投獄，その後ナポレオンよりイタリアの「オペラ座」再興をまかせられる．1730-1820］。趣味の粗俗なること！品がらの卑俗なること！後は推して知るべし。夜，ゲ夫人宅。

二日　来信，リンゼー夫人。発信，リンゼー夫人。4．午餐，ガラ宅。

三日　来信，スタール夫人。3．2．発信，スタール夫人。4．小昼餐，ブールグワン嬢宅［美と才と色で知られた女優］。午餐，レカミエ夫人宅。晩餐，ゲ夫人宅。2．

四日　来信，父。2．6．旅程，レゼルバージュ。ムール［飼犬？］　盗まる。オドゥワン［下男兼清書係］精意献身。夜，アミヨ氏宅。

五日　発信，スタール夫人，リンゼー夫人，プロスペール，ライプツィッヒのエアハルト。午餐，アミヨ氏宅。2．2．

六日　発信，デュテルトル夫人。2．12．4，僅か。

七日　4，復調。来信，フーバー夫人。2．2．12．

八日　4，良。アルベルチーヌ誕生日。2．2．12．夜，アミヨ。

九日　4，優。2．2．12．2．午餐，アミヨ氏宅。

十日　発信，スタール夫人，フールコー，ベルタン。来信，スタール夫人，デュテルトル夫人，リンゼー夫人。3．2．2．3．4．ルイェットに関する記事［ルイェット著『空想芸術におけるギリシャ人の優秀性』に関するコンスタンの書評．ピュブリシスト紙に連載，6月17日，7月3日］。10．2．4，優。12，ほぼ放棄。2．2．8．

十一日　4，悪くなし。8．8．夜，アミヨ夫人宅。金勘定の侘しくもあるかな。8，放棄。2．2．3．3．3．

十二日　発信，オシェ。ルイェット書評発送す。来信，シャリエール・ド・チュイル夫夫人，リンゼー夫人。8．3．2．4．発信，フランソワ。司祭と午餐。

十三日　4，優。嗚呼，孤独と田舎！8．8．8．2．2．長き散策。

十四日　来信，オシェ。4．8．8．発信，スタール夫人，リンゼー夫人，父。リュザルシュ行。

十五日　来信，スタール夫人。7．8．12．2 を除き，我が身諸事万端 13。7の心兆す。発信，メラン。13．13．8．8．2 なれば 4，はか行かず。

十六日　来信，スタール夫人。3．2．2．12．12に回帰。出発の控えてあれば 4，纔。午餐，アミヨ宅。

十七日　12. 12. 12. 2. 2. 8 及び 7 放棄。パリへ発つ。来信，リンゼー夫人。来信，スタール夫人。13. 13. 13. 発信，デュテルトル夫人。12−13. 1. 晩餐，ゲ夫人宅。発信，リンゼー夫人。

十八日　引越。12. 12. 4，だが進捗なしに等し。晩餐，ゲ夫人宅。2. 2. 来信，スタール夫人。

十九日　発信，スタール夫人。2. 2. 12. 12. 発信，ネッケル夫人，メラン。午餐，オシェ，バラント。『オリンピア』［ヴォルテールの悲劇，主演タルマ］，不作狂言。晩餐，ゲ夫人宅。2. 2. 12. 12.

二十日　フールコーと余の事務的問題を調整す。12. 12. 来信，リンゼー夫人。10よりは寧ろ 9. 2. 宵，リンゼー夫人と。1. 2. 2. かくて行き着く先は12. 12.

二十一日　ルイェット抜書（二回目）。12. 決定的に12. 午餐，ゲ夫人宅。2. 2. 2. 12. 12.

二十二日　4，何とかこなすも精神集中ならず。時間の損失いかばかりなるや。2. 2. 2. 12. 来信，父。午餐，レカミエ夫人宅。2. 2. 12-13. 12.

二十三日　4，並。2. 2. 12. 来信，シャパール。夜，コンドルセ夫人宅。2. 2. 12に完全回帰。

二十四日　胸中転変。発信，シャパール。晩餐，ゲ夫人宅。2. 2. 2. 2.

二十五日　4，悪くなし。午餐，レカミエ夫人宅。晩餐，ゲ夫人宅。何人（なんぴと）も理あらず怪し。いと文無（あやな）き者どもかな。

二十六日　来信，スタール夫人。2. 2. 2. 2. 2. 発信，スタール夫人。4. 来信，リンゼー夫人。午餐，ゲ夫人宅。煩。

二十七日　発信，父。2. 2. 2. 12. リンゼー夫人。午餐，アンペリウス［ブラウンシュヴァイク公国の古典文学教授］夜，ゲ夫人宅。7. 8. 12.

二十八日　発信，スタール夫人。4. 午餐，レカミエ夫人宅。2. 2. 1. 12.

二十九日　4，埒あかず。草案変更す。午餐，アンペリウス。晩餐，ゲ夫人宅。2. 2. 12. 12.

三十日　発信，スタール夫人，デュテルトル夫人。12. 12. 2. 来信，スタール夫人。2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 12 については13. だが，2 は固より迷なし。

1805年７月

一日　千思百考。12，少なくとも大幅に先延すべし。2．2，嘗てなく強し。14．ローザンヌ居住。午餐，ピカストリ，バラント。寸劇。1．晩餐，ゲ夫人宅。7．7．7に勝るはなし。

二日　午餐，ゲ夫人宅。晩餐も同宅。2．2．来信，デュテルトル夫人。13．13．

三日
四日
五日　旅程パリ・ジュネーヴ，オシェ，バラント同道。12，百考のすえ完全に放棄す。
六日　断固 2に執着。3．到着時 3．来信，ロザリー。
七日
八日

九日　疲労著し。2．2．残念なり。12の一件完全に消滅。2．3．3．13-2.

十日　発信，ロザリー，メラン，ガラタン・ド・ジョソー。午餐，知事宅。コペ復。2．2．2．3．3．2.

十一日　4．12の放棄に変更なし。2．2．2．3．3．3．3.

十二日　来信，ロザリー，ガラタン。4．3．2．3.

十三日　4．3．2．3．13．12．13.

十四日　旅程，コペ・ローザンヌ。発信，ガラタン。デュテルトル夫人音信なし。夜，ナッソー夫人宅。2．4.

十五日　4．午餐，ナッソー夫人宅。8．アドリエンヌ［従妹］2．2．3．12，消息なし。8なくば 7．夜，ヴィラール［オランダ駐在スイス傭兵である従兄か］。往時回想。

十六日　発信，スタール夫人。4．午餐，アルラン宅。夜，ナッソー夫人。13-2．7．8．我が身諸事万端，13.

十七日　4，悪くなし。午餐，セザール宅［遠い親戚］。アントワネット。賭事す。負け。愚行なり。8．8．13．7．2 に復帰。来信，スタール夫人。2.

十八日　発信，ガラ。4．午餐，ナッソー夫人宅。アドリエンヌ。アントワネット。8.

8. 15. 7. 7. 2. 2.

十九日　コペ復。道中，2. 2. 7. 7. 7. 帰着。ルクルトゥ・カントゥル［ナポレオン任命のフランス銀行頭取か］。3. 3. 2. 3. 2. 2.

二十日　4. 2.

二十一日　4. 3. 2. 3. 13. ジュネーヴ行。1.

二十二日　発信，父，デュテルトル夫人，リンゼー夫人。12，はつかに。

二十三日　4. 夜会，ジュネーヴ。ゴドー［ロシア退役軍人］。中国論。

二十四日　4，良。2. 3.

二十五日　4，纔。午餐，知事宅。モンロジエ［仏の政治家，全国三部会「貴族身分」代表．ブリュメールクーデタ後亡命から帰国．王政復興下ブルボン王朝に敵対す．1832年貴族院議員］。3. 3. 2-13. 13-3. 2，先延。

二十六日　4，不可。

二十七日　4，良。12，完全放棄。

二十八日　4，良。ガロワ。2. 2. 7，決行，時期は九月。

二十九日　2. 2. 眼痛。4，纔。

三十日　4，進捗なしに等し。眼痛，劇。2. 7.

三十一日　4，為さぬに等し。眼痛。2. 2. 7. 7.

1805年８月

一日　午餐，ネッケル夫人宅。2. 2. 7. 1.

二日　来信，デュテルトル夫人。12，放棄。我が時を無駄にす。来信，父。

三日　我が時を無駄にす。2. 2. 発信，ゲ夫人。

四日　2. 2. 2，終日。7. 7.

五日　4，少しく。生くること憂し。2．2．

六日　ガロワ。4，纔。

七日　ジュネーヴ行。健康復調。発信，父（為替手形二通同封），ドワドン，ルコント（生存証明書一通同封），デュテルトル夫人。12，完全破棄，その旨を宣言す。2，衰退。3 兆すべし。13．

八日　家庭の内憂多事多難なれども［最初の妻との離婚問題］孤独のあればすべて癒され，かくて完全なる幸福と孤独四月に及び［1794年４月から７月］，その後最終的にブラウンシュヴァイクを去るに至ったのは11年前の今日この日のことなり。来信，フーバー夫人。4．

九日　病，軽ならず。2．2．2．7．8．2．ジュネーヴ泊。病悩。チュルビ氏［コンスタンが結婚したくない相手として俎上にのせた女の現在の夫のことか．妻から離婚訴訟をおこされている．1803年１月23日参照］の弁論書。

十日　午前中，ジュネーヴ。ガロワ。プロスペール。ボワシェ［ジュネーヴの文芸学教授か］。アルガン。デュヴォ。コペ復。3．来信，フールコー，シャリエール・ド・チュイル夫人，シャパール。

十一日　心体寂寥。ゴドー。2．7．4，何とかこなす。発信，シャパール，デルシェ［大革命時代活躍の政論記者か］。

十二日　発信，シャリエール夫人，ナッソー夫人。4．3．2．

十三日　4．草案変更す。3．7．13．

十四日　4，可。3，後悔なきにしもあらず。

十五日　4，優。孤独，嗚呼，孤独！

十六日　来信，父，ナッソー夫人。4，良。6．

十七日　4，良ならずとも悪くはなし。宗教論議。シュレーゲル，余と意見を同じうす。自然の神秘。二人を除き，これに感じて心を動かすという者なし。

十八日　4，可。ジュネーヴ行。1．3．

十九日　コペ復。メクレンブルク［メクレンブルク＝シュトゥレリッツ公国］王子。3．3．

二十日　4，不可，その原因当の本人も知るに由なし。3．3.

二十一日　ローザンヌへ発つ。出発前，シャトーブリアン。2.

二十二日　来信，リンゼー夫人。4，不可。2，強烈。午餐，晩餐，ナッソー夫人宅。発信，スタール夫人。

二十三日　2．2．午餐，アルラン夫人宅。4，沈滞。2，激烈。発信，リンゼー夫人。

二十四日　4，復調。2．午餐，ナッソー夫人宅。8．8．スタール夫人到着す。2．2.

二十五日　2．2．4，復調。午餐，シャリエール夫人［コンスタンの叔父の従姉妹．コロンビエのシャリエール・ド・チュイル夫人とは別人］宅。晩餐，アルラン夫人宅。2，依然として。

二十六日　2．2．4，怠る。午餐，ロワ夫人宅。7．7．8．7．13，永遠に然あるべし。アドリエンヌ，美形。

二十七日　発信，父。コペ復。2．2．7．7．14.

二十八日　4，復調。上陸の報［ナポレオンの英本土上陸作戦］。3．発信，ドワドン。

二十九日　4，辛うじて。3．3.

三十日　4，何とかこなす。大午餐。

三十一日　4，復調。3.

1805年９月

一日　4，良。3.

二日　4，可。ジュネーヴ行。晩餐，アルガン宅。

三日　コペ復。悪報［不詳］。アメリー，悪くなし。

四日　来信，デュテルトル夫人。12の心境に戻りぬと言うも遠からず。2．2．我が身に愛想つきたり。来信，シャリエール・ド・チュイル夫人。凄まじき喧嘩。和解，3．2．13.

五日　喧嘩，打ち仕舞。4，良なるも纔。フランスの若者相手に午餐。一知半解，軽佻浮薄の輩なり。お目出度き会合かな！3.

六日　来信，ナッソー夫人。発信，ナッソー夫人，メラン。午餐，知事。ヴァシェ［不詳］。［昨日とは］別階層のフランス人なり。これまた別種の軽佻浮薄というべし。4，優。3.

七日　来信，ナッソー夫人。4，可。筆の運び鈍る。7．7.

八日　4，はか行かず。クセノフォンの部分，生硬あらためるべし。悪報。心は2，頭は 3. 発信，ナッソー夫人。

九日　発信，ルコント。ルコント，余の八月七日便に返なし。発信，ウジェーヌ。来信，ドワドン。2．2，強烈。7．8．12．14，混乱の極。ナッソー夫人より返書。

十日　午餐，ビヨ。ジュネーヴ行。1.

十一日　旅程，ローザンヌ。ブザンヴァル『回想録』［スイス生の将軍，マリー・アントワネットと宮廷に取り入り，1789年パリ包囲軍司令官となるも無能，臆病風に吹かれ７月14日逃亡，捕えられるが宮廷の介入で無罪，以後姿を隠しパリに死す(1791)．1806年(？)刊の『回想録』は関係者の醜聞秘密が暴露され物議をかもした］。面妖奇怪なる世紀かな！

十二日　来信，リンゼー夫人，父。発信，スタール夫人，父。メックス村行［ローザンヌより５里，親類セヴリ・ド・シャリエールの在所，城館と土地を有す］。セヴリの幸福。地主の暮し。

十三日　メックスより戻る。ナッソー夫人に腹心を布く。結論出ず。2．2．だが如何にして。 8，困難。デュテルトル夫人，消息なし。12をめぐる13今にして後悔す。発信，スタール夫人。

十四日　来信，スタール夫人，ルコント。2．2．仕事，怠る。生くること憂し。午餐，ナッソー夫人宅。ヴァロンブルーズ行［父所有のローザンヌ近郊の土地，コンスタン清算してナッソー夫人と共有することになる］。

十五日　来信，スタール夫人。2．地獄の責苦。発信，スタール夫人，フロサール将軍［塊の将軍，失脚して文学に専念，スタール夫人を識る］。午餐，ドリニーにて。7-13-13.

十六日　発信，ゲクハウゼン嬢，デュテルトル夫人，フーバー夫人。12に小回帰，だが遅きに失すとの感あり。ヴァロンブルーズ購入。

十七日　ヴァロンブルーズの手続。午餐，晩餐，ナッソー夫人宅。

十八日　旅程，ローザンヌ・コペ。3. 2. 大いに悟ることあり：余なければスタール夫人幸福になるべし。されば余が夫人に添うは我が身のためなり。

十九日　スタール夫人を知りてより11年。終日無為。かくて無為を重ねて二週間とはあいなれり!!

二十日　来信，ナッソー夫人。発信，ナッソー夫人。3. 3. 4，少しく，だが再開にこぎつけたり。盛大なる午餐。

二十一日　4，良。来信，父，ルイーズ。6. 6. 3. 3. 3.

二十二日　発信，父。旅程，コペ・ローザンヌ。3.

二十三日　来信，シャリエール・ド・チュイル夫人。8に小回帰。夜来身悶。1［肉の快］の欲求，これ妨となりて3の持続まったく不可能。しかし，今回 2への回帰なし。発信，シャリエール夫人。4，辛うじて。一日の大半ナッソー夫人と過す。腹心と友情。

二十四日　発信，スタール夫人。10年前終了せし訴訟記録［前妻との離婚］の古びたるを再読す。人生の陰影，遠景となれば淡灰色とは映りぬ。4，可。3. 3. ヴァロンブルーズの代価支払う。

二十五日　来信，スタール夫人。ドリニーにて午餐，終日を過す。

二十六日　来信，スタール夫人。4，可。午餐，ナッソー夫人。ロザリー訪問。8を談ず。8［結婚］について一肌脱がんとの申出，シャリエール夫人よりあり。結婚は最善の策にして，4 にも利あるべし。だが，余の今の心境は3なり。

二十七日　旅程，ローザンヌ・ロール。2，はつかに。

二十八日　来信，ドワドン，ゲ夫人。旅行計画。心の持ちよう次第，2 が思うよりも簡単な事柄，正しい行為とさえ思える時が来るものと信ず。観察と沈黙あるべし。

二十九日　折角の朝だいなしとはなりぬ。凄まじき喧嘩。見るとろ 2 は避けられるべきものにあらず。別の喧嘩。3，不可能。7，困難。12，放棄。8，真剣な検討あって然るべし。

三十日　昨日の喧嘩蒸返す。2. 2. 8. ドール旅行，実施延期。来信，ナッソー夫人，

篤き友情。4，優。デバッサン［王政復古下代議院委員となったリシュモン伯か］。機運熟す。すべてを勘案するに，8に就くべし。余の心，12に回帰とあらばこの限りにあらずとはいえ，12回帰は余の信ぜざるところなり。

1805年10月

一日　ジュネーヴ行。1．エルゼアール・ド・サブラン［早熟な詩人，才子，スタール夫人と親交を結ぶ．1774-1846］。何たる衒気！その詩作品。不思議な形式！目的も思想もなく綴られし作物にして，纏めは読書子の才覚に任せるとでも言うべき代物か。ドゥリール［仏の詩人，その自然描写は後の前浪漫派に影響を与えた．1738-1813］派。ミショー［仏の政論記者，歴史家．ドゥリール調の詩作も手掛けた．1824年ドゥリール全集全16巻を刊行．1767-1839］。エスメナール［仏の政論記者，詩人．ドゥリール調の詩を残す．1769-1811］。

二日　発信，ナッソー夫人，メラン。4，纔。エルゼアール・ド・サブラン。その抒情短詩。驚くべき，いわんや，予期せぬ思わざる才能。主題に助けられての効果ということもたしかにある。

三日　4，辛うじて。書籍を欠く。心情 2 に傾き，後悔，12を惜しむ。だが惜しむとて覆水盆に返らず。これを捨て8に向うべし。余に勝る「優柔不断人間」の例(ためし)いまだ嘗てありやなしや。

四日　4，可。筆の運び鈍れども著作成り調(ととの)いつつあり。来信，マリアンヌ［義母］。悪報。2．2．

五日　発信，フールコー，父，メラン。来信，デュテルトル夫人。12に完全回帰，だが余が冒せし誤算のために，或いはその誤算無くとも，実現は不可能なるべし。来信，ナッソー夫人。発信，デュテルトル夫人。12．ゴロウキン伯爵［露の外交官，作家］。露人すべからく年旧りたる仏人なるべし。4．

六日　ドール旅行支度。時を無駄にす。来信，父，余の旅行延期を求めきたる。8，或いは，12と覚悟決めたるも，12言及の返書あるまで控えて待つがよし。死すとも待たん。4，可。

七日　発信，父。来信，ナッソー夫人。4，辛うじて。

八日　発信，ナッソー夫人，デュテルトル夫人，12-13，メラン，8．4，可。3-13．

九日　発信，ナッソー夫人（2400フランの為替手形同封），ロザリー。4，良。ヴァノ夫人［詩人，スタール夫人の父ネッケルその愛読者であったという．1775-1851］。シュアー

ル夫人，田舎者。

十日　8．8．4，良。我が性格を率直につくづく反省すれば，8をめぐり13.

十一日　4，良。来信，ナッソー夫人。

十二日　発信，ナッソー夫人，フォリエル［南欧文学研究家］。来信，父。4，悪くなし。

十三日　4，良。ガロワ。

十四日　4，悪くなし。眼痛［レマン湖の水光眼にこたえる］。パリへ帰りたしとの念しきりなり。来信，ロザリー，ナッソー夫人。

十五日　4，良。3．著書，後半部を待たず前半部上梓の意決す。

十六日　発信，ロザリー，メラン，ナッソー夫人。4，良。

十七日　発信，父。4，優。著書，後半部［ママ］のみ上梓の決意強し。12．8．2．7．多岐亡羊の迷。3，軽くはあらねど如何にせん。

十八日　4，良。来信，フールコー。原稿の一部，スタール夫人に読んで聞かす。3.

十九日　発信，フールコー。モンティ［伊の詩人，劇作家．反革命的詩人から熱烈なナポレオン崇拝者となる］到着。柔和にしてかつ誇り高き見事な容顔，だが，根は詩人の質．4，可。

二十日　4，辛うじて。著書脱稿まで 2 の延期を決意す。その時点で考えるべし。

二十一日（月曜日）　発信，フールコー。4，可。モンティ。見事な吟誦。ボンステッテン戻る。待つこと違いぬ。

二十二日　旅程，コペ・ローザンヌ。ナッソー夫人病む。参考文献を読む。

二十三日　4，辛うじて。2．2．8 に回帰，だが二十日の決意固持す。

二十四日　来信，スタール夫人，父。発信，スタール夫人。4，可。

二十五日　我が誕生の日。ただならぬ信ずべからざる報［ナポレオン，ウルムで墳軍を破る．10月15-16日］。発信，スタール夫人。ドリニー訪問。4，纔なるも甲斐あり。

二十六日　発信，父，ドワドン。来信，スタール夫人。4，不可。午餐，アントワネットとナッソー夫人宅。8，不可能かつ望ましきものに非ず。眼痛。

二十七日　来信，スタール夫人。4，何とかこなす。午餐，アルラン宅。2.

二十八日　旅程，ローザンヌ・コペ。来信，ゲクハウゼン嬢，父。パリ行決定。2. 2.

二十九日　アメリカ旅行を思う。これ恐らく最善の策なるべし。4，悪くなし。2 は我が「肉欲」の必然なり。1のなければ我が身処する能わず。

三十日　発信，父，メラン。4，可。1の調整可能ならば 3.

三十一日　4，辛うじて。8，12，7，いずれも放棄。1の完全なる調整手段発見す。そに縋らざるべからず。

1805年11月

一日　発信，ナッソー夫人。4，纔。爆発に至らぬ喧嘩。3-2-3-1. 昨日の調整手段，悪くなし。

二日　4，良。著書，10月17日思いつきし前半部のみ上梓の案再浮来す。この案を破棄す。

三日（日曜日）　4，可。我が著書，印刷上の諸問題あり，それを思えば悲観的なり。とにかく，原稿完成すべし。その上で待つこと避け難しとあらば，暫らくは時を利し推敲して完璧をつくすべし。

四日　発信，オシェ。来信，ナッソー夫人。4，良。

五日　4，秀。3. 1との両立可能ならば 3. 余にはこれ不可能との認識まったくなし。

六日　発信，ナッソー夫人。4，僅かに。

七日　来信，父。4，辛うじて。

八日　発信，メラン。4，纔。第一書から第四書までの草案「鑄直」す。

九日　コペからジュネーヴへ移動。

十日　発信，父。ジュネーヴ滞在のための措置を講ず。仕事，新草案に基づき第四書

まで。1.

十一日　4，不可。草案変更によりこれまでの例になく時間を取られる。

十二日　4，復調。3と1の両立。

十三日　4，良。健康すぐれず。余の眼の養生，眼には適すとも他には不適なるべし。講ずべき処置や如何に。

十四日（木曜日）　4，可。原稿進捗す。眼痛による負を思えば仕事の進捗もって良とすべし。世を逃れいよいよ独居に徹すれば余が仕事いよいよはか行きたり。ビュティーニ夫人宅にて演奏会。

十五日　来信，オシェ。4，はか行く。カディスの風説［カディスはスペインの港.トラファルガー海戦(10月21日)の噂この頃スイスに流れる］。

十六日　4，妨害中断数あれば纔なれども，可。夜，アメリー宅。アメリー，持たぬ才気に閃を見せたり。モンティに暇乞をす。モンティ，短気，激情，気弱，小心，敏捷，まさに詩人の見本というべし。才はシェニエに優るとも，シェニエと好一対のイタリア人なり。

十七日　来信，父，ドワドン。レカミエ氏破産［妻のジュリエットは氏の実の子(私生児)という．王の処刑，恐怖政治の中偽装結婚により資産の移譲を謀ったといわれる］。哀れむべし，ジュリエット！してみると，不幸というやつは世の善人だけが見舞われるべきものなのか。4，半可。芝居。晩餐，ジェルマニー夫人宅。

十八日　2．2．ドールに暮さんとの決意。発信，ナッソー夫人。4，纔。中断妨害万々の中，はかを行かすは不可能なり。2．2．

十九日　2．4，纔。午餐，知事宅。終日心体寂寥。

二十日　発信，レカミエ夫人。4，悪くなし。午餐，アルガン宅。何たる人間ども！何たる発想！1.

二十一日（木曜日）　4，半可，なれども進捗まずまずというべし。

二十二日　発信，父。4，可。来信，ナッソー夫人。

二十三日　仕事せず。休息を必要としたり。夜，我が哲学書半ばまで読む。良き書かな。

二十四日　4，良。だが，社交の空語囀りに盡日被害受けたり。ために発熱。昨日の読書を続く。現実認識，見解を同じうす。

二十五日　4，悪くなし。眼，疲弊す。演奏会。夜会，堪え難し。著書刊行後まで2 断固延期のこと。

二十六日　4，可。だが，一歩進むや必ず究むべき新たなる地平線に出くわすなり。キリスト教時代以前のユダヤ思想。いかにユダヤ思想が東洋思想と交錯混淆するに至ったか，そしていかにこの混淆がキリスト教に影響を与えたか。1.

二十七日（水曜日）　4，良。来信，父。我が眼には仕事過ぎたり。休息三日間を欲す。

二十八日　発信，フールコー，ドワドン（為替手形100リーヴル同封）。4，良。

二十九日　発信，ナッソー夫人。来信，父。例の風説ますます広まる。4，為さぬに等し。つまらぬ人間なるかな！ビュティーニ。利己心の満足と身についた出世欲。これこの男には同時に情熱であり計算であるのだ。

三十日　4，遅々なるも良。夜，アメリー宅。3. 3.

1805年12月

一日　2. 今日の感想が明日逆転せぬ例なかりしは余の宿命とも言うべし。とにかく，相手［スタール夫人］の興奮激情と軽挙妄動は危険であるばかりか心身困憊の因でもある。されば，行けるものなら2で行くべし。4，進捗なきに等し。何事も悪日とはなりぬ。

二日　4，不可。2. 2. もう一方の仮定［1と3の両立］において生を安んずるの不可能なるを確信したれば完全に元に戻りぬ［スタール夫人との別れ］。来信，ナッソー夫人。

三日　4，纔。来信，父。不愉快なる会話。2なくばあらず。

四日　発信，父。余の心，依然として深き憂に沈みたり。2. 2. 我が身の自由奪還ならずば，我が命やがて絶えぬべし。余の「多神教衰退論」，冒頭部分を読む。理知（エスプリ）の本道をめざすが時に脇道に逸れることあり。1. 知事訪問。《ソノ変リタル様ヨ》［ウェルギリウス：『アエネーイス』］，いや寧ろ，「回心」と言うべきか［ナポレオン崇拝に転身した知事バラント，その後批判に傾く］。

五日　進捗なしに等し。このところ仕事，沈滞気味なり。ジュネーヴ図書館。12. 12. 12

に完全復帰，だが，遅きに失したるは言うに及ばずのことなり。

六日　発信，ナッソー夫人，シャリエール・ド・チュイル夫人，ベルンの書肆ハラー。4，旧稿数章，良。夜会，ヴィルヴォ夫人［元仏駐在工兵士官の妻］宅。暗愚痴者の群，言うも愚なり！

七日　4，引続き旧稿数章。ネッケル夫人訪問。アメリー。ふとつかの間 8．1の障害常の如し。講和談判。ヨーロッパ，何たる様よ！

八日　4．更に幾何かの変更避けて通れず。

九日（月曜日）　来信，父。4，すべて「鑄直」，良。来信，ナッソー夫人。

十日　発信，フールコー。4，良。斜頸劇症。苦痛の些少なりとも生ずるやすべてに支障きたすべし。

十一日　4．草案，更に「鑄直」す。ついに最善案得たりとの感あり。来信，父，書肆ハラー。

十二日　草案最終調整了。4，良。発信，チューリッヒの書肆ツィーグラー。1と8，及び将来に対する妙案あり。

十三日　4，良。来信，ナッソー夫人。デュヴァルの『恋するシェクスピアー』。動と形あれど魂なく重苦しき感あるが，これは作家が「作家馬鹿」であること，上流社会の暮しをしらぬことに因る。ロシア敗北の噂あり［仏アウステルリッツの勝利．12月2日］。

十四日　発信，ナッソー夫人。4，報［戦捷］に中断せらるも良。「勝利ノ大義ハ神ノ悦ブトコロナリ，云々」［ルカヌス：『ファルサリア内乱賦』．引用の後半は，「敗戦ノ大儀ハカトーノ悦ブトコロナリ」］。夜，アメリー宅。

十五日　手紙とともに6000リーヴル，ナッソー夫人に送金。悪夜，1が原因。我が体の処理を講ずること不可欠なり。4，不可。モンティ，イタリアの代議員エモスカティ［ミラノの医者，政治家．五執政官政府の伊側要員］

十六日　発信，父。来信，フールコー。2．2．嗚呼，我が体の処理を講じたし！来信，ナッソー夫人，シャリエール夫人［ド･チュイル］。4，はか行かず。講和の報。

十七日　『メロペ』［ヴォルテール作：夫の下手人の妻となったメロペとその末子の復讐譚］舞台稽古。『マホメット』［ヴォルテール作：主題は宗教の偽善と狂信の告発］の中でゾピア

役［マホメットの偽善を見抜き遺恨と復讐心を懐くゾピア，マホメットの放った刺客ラシド（実は我が子）に殺害，ラシドはその恋人に横恋慕するマホメットの嫉妬から毒殺される］を演じ詐欺師を痛快に罵倒せんとの誘惑に駆られたり。4，為さぬに等し。午餐，知事宅。カプララ［伊枢機卿，ミラノ大司教．ナポレオンを聖別しイタリア国王に即位させた］。御側仕（おそばづかえ）の心意気。人間という奴は!! 1．その効用常の如し。心身本復す。

十八日（水曜日）　発信，メラン，ヌーシャテルのヴィルマン［スタール夫人の推挽でこの年ヌーシャテル市公会堂で文芸学を講ず］。4，不可。人間につき合い今のような暮しにどっぷり漬かれば余が思惟思考いずれも千々に砕け散りたり。午餐，司令官宅［ジュネーヴ軍司令官］。来信，ナッソー夫人。喧嘩。2．2．2．嗚呼，奈何せん！我が仕事危うし。脳中混沌。［スタール夫人の］千編一律の愚言愚行，それに劣らぬ一本調子の理屈，かくなる単調不変の騒の直中にあれば余は思考を集中すること能わず。

十九日　4，良。13．13．

二十日　発信，フールコー，ナッソー夫人。4，はか行かず。着想一つ浮かびそれを扱いかねたり。明日纏めん。来信，ナッソー夫人。午餐，ソシュール夫人宅。

二十一日　4，不可。同じ章を加筆すること十回に及べり。2．2．悪日。

二十二日　来信，父。4，可。だが，いぜんとして同じ章に立往生す。

二十三日　4，優。来信，ナッソー夫人。2．

二十四日　来信，ドワドン。4，優。ついに因縁の章終止符を打ちたり。『メロペ』舞台稽古。

二十五日　発信，ナッソー夫人。4，纔，だが，筆の運び良し。講和締結の報［仏・墺間のプレスブルク条約．12月26日調印］。晩餐，知事宅，なかなか愉快なり。

二十六日　発信，父，ドワドン。上梓まで2を延期すること，あらゆる道理の命ずるところなり。4，良。今回の「鑄直」の成果多大なり。半年以内の脱稿あり得べし。

二十七日　4，可。『メロペ』舞台稽古。健康状態不良。眼もまた不良。余の今の在り様（よう），余の肉体と神経に有害なり。

二十八日　4，良。1．

二十九日　4，良。

三十日　4，良。『メロペ』上演，完璧無欠の好演。熱狂薄けれども大成功。匿名の誹謗書［不詳］。「汝の贔屓の新聞に用心あれ」。来信，テレーズ・フォルスター［シャリエール夫人の友人．1804年３月23日参照］。シャリエール・ド・チュイル夫人死す。シャリエール夫人を失うとともに余がまた失いしものは，余に優しき愛情をかけ給いし一人の「友」，まさかの時の「頼所（たのみどころ）」，余に傷つけられるも余から終ぞ離れ行くことのなかりし「心」なり。この日乗に記せし死者の数すでに幾何ぞ！この世から人の減（め）る，なんぞ生きてあらめやも！

三十一日　原稿，種々の註を配す。シャリエール夫人の死の悲痛に深くうち沈みぬ。1.

1806年１月

一日　発信，フォルスター嬢。8．発信，オシェ。余が仕掛けたる，当を得ぬ喧嘩［スタール夫人相手］。旅程，ローザンヌまで。ゾピアの役柄を学ぶ。この役において力と父性の見事な調合を演ぜん。晩餐，ナッソー夫人宅。テレーズをめぐりセヴリーと談。8.

二日　午餐，ナッソー夫人宅。発信，スタール夫人。夜，ロワ夫人［母方の叔母］宅。余がアントワネット，アドリエンヌと結婚せざるは，ほかでもなし，その結婚を望まぬからであり，年金30,000リーヴルも未練はなし。

三日　午餐，ロザリー宅。テレーズ。8．8．発信，スタール夫人。鬱悒（いぶせ）きかなローザンヌ：睦まじき仲合（なからい）に刺なきためしなし。午餐，晩餐，ナッソー夫人宅。

四日　来信，スタール夫人。3．4．フリ夫人訪問［コンスタンがその田舎ラシャブリエールを売った相手．噂では難しい性格の女］。ローザンヌの真綿に針の悪御達（おんなども）に比ぶればさすがのフリ夫人もまだましとでも言うべきか。午餐，アルラン宅。晩餐，ロワ宅。ロゼット・セニュ［スイス傭兵隊士官の娘，21歳］。この女に醜（しけけ）き歯のなからましかば！

五日　来信，スタール夫人。4．発信，スタール夫人。ここ二年，思いしよりも仕事量少なし。714日中259日仕事怠けて遣り過したり。晩餐，ナッソー夫人宅。

六日　12の艶書（たより），今日余の許に到らましかば！必要な決断力の余にあらば実に合理的計画なるべし。午餐，ヴィルデーグ夫人［コンスタンの母方の従妹］宅。悍妻順夫の良婚。4．晩餐，ナッソー夫人宅。発信，スタール夫人。

七日　4．夜，アントワネット宅。ロゼット・セニュ。眉目，清げに優しく愛嬌あり。晩餐，ナッソー夫人宅。

八日　来信，スタール夫人。4，良。1の処理法を正直に講じて3．夜，ヴィルデーグ夫人宅。晩餐，ナッソー夫人宅。

九日（木曜日）　2を熟思反省。これ，我が身にささりたる刺なり，余に憑きたる強迫観念にして，余を苛め，ために惜しむべし，余の才能の半ば奪われ幸福の芽ことごとく摘み取られたり。4．方式変更のこと。さもなくば，記せし註の分類だけでも10年の歳月を要すべし。発信，スタール夫人，カシェ［スタール夫人の代理人］。午餐，ナッソー夫人宅。

十日　旅程，ローザンヌ・ニヨン。ゾピアの役を勉強す。臆病神に再び取り憑かれたり。この役うまく務められぬのではとの不安あり。

十一日　旅程，ニヨン・ジュネーヴ。来信，フォルスター嬢，フールコー。ゾピア役，不安ますます昂じたり。1．

十二日　『マホメット』舞台稽古。余の演技不調，身の所作に難あり。晩餐，ソシュール夫人宅。

十三日　独り稽古して四回に及ぶ。うまく行くべし。午餐，デュピュシュ将軍宅。

十四日　4，纔。『マホメット』舞台稽古。演技好調。我が役柄と演技のほどに自信生ずとの感あり。

十五日　発信，父。4，纔，註の整理を手掛けるのみ。『マホメット』中の我が役に一工夫加えんと試みたり。如何なる虫の知らせなるや，何事か禍ありて舞台に上れぬとの気持生ず。夜，舞踏会。1の欲求減少の事実，不思議なり。

十六日（木曜日）　アメリー。8．合理的選択はこれを措いて他にあるまい，しかも容易なり。来信，オシェ。原稿，序説部分照校す。芝居に夢中となる。

十七日　『マホメット』舞台稽古。演技悪くなし。まだ工夫すべき余地あり。来信，ナッソー夫人。

十八日　今回の『マホメット』の企画に余は半ば芝居狂と化しすべての時間を奪われたり。2．平穏思和を取戻し残余の人生棒に振らぬために 2．

十九日　来信，ドワドン。『モハメット』舞台稽古。演技悪くなし，されど，これまでの情熱持つに持たれず，されば微妙な感情を演ずることも怪しくはなりぬ。1．

二十日　過ぎにし多くの日々同様終日無為にす。仕事中断せしよりこの方，起きるより

寝るまで有意の一瞬持つにいたることなし。2. 2. 2. 2.『偽りのアニェス』[喜劇，デトゥシュ作] 舞台稽古，拙劣不堪。晩餐，アメリー宅。8. 今在る事に比ぶればすべて良し。

二十一日（火曜日） 来信，父。『マホメット』舞台稽古。臆病神は去るも堪え難き倦怠に襲わる。

二十二日 発信，父，ナッソー夫人。7. 7.

二十三日 気乗りせぬまま，ジャンリス夫人［仏の作家・教育家．ルイ・フィリップの幼少教育にあたる］について拙き小論の筆を執る。もはや何事にも興湧くことなし。余がゾピア役，身を入れず心も入れず，されば無為無能の演技となるべし。7. 7. 7.

二十四日 無為に過す。何たる生き様（よう）！7. 8. 2. ふとその気になるが 3 は不可能なり。12，惜しむべし。覆水盆に返らず。『マホメット』舞台稽古。余の演技なんとかなるべし。

二十五日 昨日晩餐時の喧嘩。この女，一生変ることはあるまい：長所，短所，難点，永久不変。余の安心休息と出世不可能！2. 2. 余の今在るは苦なればとりあえず再び仕事に身を入れるべし。来信，ナッソー夫人，父。十五日の虫の知らせ，根拠なし。ローザンヌでの余の評判良し。さりとて，目出度くもなし。『モハメット』舞台稽古。最終稽古なり。

二十六日 4，少しく。『偽りのアニェス』舞台稽古。成功怪し。8に到るために7. 行着くところ決すべきはこれなるべし。

二十七日 本日公演の日を迎えたり。今この時に至るまで余の心には熱意も不安もなし。今晩結果を記さん。文句なき成功。持てる実力には及ばざりけりとの感あるも余の演技上出来なり。来信，マリアンヌ。5. 5.

二十八日 5をめぐり思案熟考。例の850リーヴルに加え600リーヴルを父に送金す。発信，父。2 は我が身唯一の，また恐らくは我が身最大の障害でもあるまい。1.

二十九日 発信，ナッソー夫人。馬上散歩。来信，マリアンヌ。余がマリアンヌに掛けし疑［父の病状大袈裟に伝える］は謂れなき疑なり。生きて在ることにほとほと倦み疲れたり！

三十日（木曜日） 発信，父。ドール行決定。我が友どち余を称賛す。称賛は一向に嬉しくなく，非難は大なる苦しみなり。

三十一日　発信，ナッソー夫人，ローザンヌのシャリエール夫人。2，7，8，3，あれこれ錯綜す。ドールへ発つ。サン・セルグ泊。

1806年２月

一日　シャンパニョル泊。発信，スタール夫人。

二日　ドール着。マリアンヌ大袈裟に過ぎたりとの余の疑，謂れなき疑にはあらざりき。

三日　父に会う。危険状態脱せりとは思うも，力なく，寄る年波に打ち拉がれたり。嗚呼，自然の痛ましきかな！発信，スタール夫人。

四日　余の大冊「政治論集」［後に大著『政治原論』に結実］の小冊縮約版近刊を期し要約執筆開始す。この企画，大なる喜なり。父と談。父は愛(かな)しく優しかりけり。6．6．

五日　発信，スタール夫人。4，縮約版。6．6．来信，スタール夫人。フールコー，ナッソー夫人。

六日　4．暮しの単調なる，だが穏やかと言える暮しなり。

七日（金曜日）　4．来信，スタール夫人，父（転送便）。発信，スタール夫人，オシェ，ドワドン。

八日　明日出発の予定なれば父と終日を過す。

九日　一晩中高熱。出発は十一日まで無理なり。「蛭」の効能あらたかならずとあらば出発は覚束なし。

十日　快方の兆なし，だが出発の念しきりなり。望むらくは当地よりもジュネーヴで病牀に就きたし。来信，スタール夫人。発信，スタール夫人，オドゥワン。

十一日　父は子に子は父にいと優しき心を残しつつ，父の許を発つ。6．6．この旅行，余の意に叶いたり。ポリニィ着。道中の労、なきに等し。

十二日　発信，ポリニィより父。旅程，サン・ロランまで。

十三日　旅程，コペまで。恐ろしき道面(みちづら)と雪。それも今や過ぎたること，かくて余は父に親孝行をばなしきたりぬ。

十四日　ジュネーヴ着。来信，マランダン［ルーアンの法律家］。発信，シャリエール夫人。午前，2 なるも，帰宅してデュシャトレ夫人［仏の作家・科学者．ヴォルテールの愛人として有名．1706-1749.］の書簡を読めば3とはなりぬ［アルジャンタル伯爵(パリ最高法院判事，ヴォルテールに捧げた熱烈な友情で知られる.1700-1788)宛未発表書簡集(オシェ編)］。来信，フーバー夫人。4．今熱が入るは「我が政治」［政治論要約執筆］。

十五日　発信，父，ロザリー，ルーアンのマラダン。来信，ルイーズ，スタール夫人（転送便）。4，良。『アルジール』［ヴォルテール作：スペイン支配下のペルーが舞台，自然人の徳と文明開化のキリスト教的徳との対立劇］舞台稽古。不調。

十六日　4，優。胸部痛，甚。2．2，はつかに。仕事怠るべからず。

十七日（木曜日）　発信，ルイーズ，父。もしやはっきりいって胸を冒されたということにあらずや。4，良。来信，ドワドン。余の銀器すべて盗まれたり。『アルジール』。見事な上演。来信，シャリエール夫人。

十八日　4，優。進捗著し。このまま邪魔されずばうち1章を除き二週間後完結せん。午餐，カズノーヴ夫人［タレイラン秘書夫人のことか］宅。冒頭第七章まで読む。聴く者すばらしき出来と評す。

十九日　発信，ナッソー夫人。4，良。

二十日　来信，ルスラン，父。4，優。1．原稿朗読第二十章まで。賞賛大なり。

二十一日　発信，ルスラン。4，優。原稿朗読第二十三章まで。見事な出来。来信，ナッソー夫人。コペ行。

二十二日　4，可。来信，ロザリー。『セヴィリアの理髪師』舞台稽古。原稿朗読第二十七章まで。悪くなし，だが追加すべき意見思想いくつかあるべしと言う。それがいかなる結果をもたらすか，居合する者皆の頭にはなし，すると余の恐れ過大に過ぎるということか。開けて見れば分ることなり。

二十三日　4，可。だが進捗鈍り始む。ことあるごとに拡げんとするは余の常なるが，草案によく忠実にしてその拡張をはかるなかれ。

二十四日　発信，オシェ，父。「領土の優越権」，旧い思想を表現するための新語。4，良。『アルジール』第二回目上演。初回に比して見劣りす。明朝早起して仕事せんがため大晩餐を断りたる，賢明なり。

二十五日　4，良。旧章の一つ，多々加筆。草案の「鑄直」はまさに避けるべし。『フェー

ドル』舞台稽古。フリ夫人［62歳］。「若さの傲慢無礼なること！要は才能なり。老いは若さには宥し難き弊害と映るべし」と。大掛りな，そして退屈なる晩餐。

二十六日　来信，父。4，可。草案の変更一切あるべからず。胸部痛。

二十七日（木曜日）　4，悪くなし。「宗教の自由」に関する章朗読。見事な出来，だが反響に要慎あるべし。原稿再見，己の草案偏執狂に大息長嘆す。これなかりせば余の名声すでに成りてあらまし。悪夜。1の絶対的必要性。常々思いめぐらせし処理法に訴えざるべからず。

二十八日　発信，シャリエール夫人。4，秀。司法権に関する章，第三十から三十三まで朗読。他の章に比べ勢に欠けたり。補強の工夫あるべし。スーザ伯爵［ポルトガル外交官，夫人は仏の作家］。

1806年３月

一日　4，良。来信，ナッソー夫人。1に関する計画決行せん。第三十四から三十六章まで朗読，激論ありたるが出来良し。［正篇では］反論にきちんと答えているのだが，［縮約版は］思うに削除省略が過ぎるというべきか，ために反論に対する論駁を省いた場合もある。

二日　4，良。いくつか考えを加筆す。この仕事，十八日の印象では二週間で 脱稿と踏んでいたが少なくともあと一月はかかるべし。来信，ドワドン。来信，フェルモン［レンヌの弁護士，国債清算事務局長．ネッケル氏の債券のことか］。何たる人種，何たる法解釈！

三日　発信，ゲクハウゼン嬢，フーバー夫人。テレーズと8［結婚計画］。なきことかは。4，悪くなし。執筆開始して明日で一月となる。印刷すれば327頁分既に書きすすめたり。

四日　物狂おしき夜。発汗多量。健康悪化。将来の計画。7．7．4，悪くなし，だが纔，悪夜のなせるわざなり。

五日　発信，ナッソー夫人。4，良。喧嘩。2．7．

六日　微恙なれども4，悪くなし。2，だが著書完了後のこと。

七日　発信，父，ドワドン，フールコー。4，可なるも怠心生ず。文を起こすよりは文を写すを好しとす。来信，ナッソー夫人。

八日　4，良。悪夜，衰弱，発汗。くよくよ思い悩み過ぎるからである。ここ三日第三十七から四十一章まで朗読。見事な出来。だが脱稿には四月必要と見る。

九日　4，微恙の身ながら悪くなし。数章追加。書けば長くなり既に419頁に達す。

十日　4，悪くなし。午餐，知事宅。『ザイール』［ヴォルテール作：愛と宗教（イスラム教・キリスト教の葛藤劇）］舞台稽古。プロスペールの演技，情感こもりたるも，いま少し気品のあらまほしく，また間合い性急に過ぎるの感あり。

十一日　発信，ナッソー夫人，ルスラン。4，怠る。悪日。我が身疲れたり，我が眼また然り。『アガール』［『砂漠のアガール』．我が子と演じるために作ったスタール夫人の小品劇］。この芝居重過ぎたり。相手は自然，その自然に挑む話である。

十二日（水曜日）　4，怠る。我が身完全に崩壊，病骸を晒したり。3．だが余が憂に憂を重ぬるはまさにこれがためなり。『アガール』上演。わきてアルベルチーヌ［コンスタンとスタール夫人の子といわれる］麗しく愛でたし。『ピグマリオン』［ルソー作，一幕物歌謡芝居］十八世紀流わけの分からぬ「唐 囀（からさえずり）」。各時代，その時代の「唐囀」を有す。晩餐，ドクサ夫人宅。

十三日　4，不可。小喧嘩。クリスピーニ，住民に布告［ルサージュの喜劇『主人と張合うクリスパン』をイタリア風にもじりナポリ王ジョゼフ・ナポレオンを指したものか．3月30日ナポリ王となる］。ヌーシャテルの交換［プロシャ王，ハノーヴァーと交換にヌーシャテルをナポレオンに譲渡］。

十四日　風邪症状倍加。来信，父，マランダン。病状篤く仕事無理なればいくつか註を控えるにとどまる。

十五日　4，怠る。病続く。『アガール』二度目の上演。初演に比して見劣りするも，単に初演の物珍しさなければのことなるべし。『セヴィリアの理髪師』，好演。

十六日　朝六時起床。咳嗽治まらず。4，精を盡くすも後が続かず。来信，ルスラン。

十七日　咳嗽，恐しき夜。発信，父。来信，ナッソー夫人。プロスペール，「審議官心得」［参事院］。あちこちいくつか想（イヂ）を拾い集む。

十八日　発信，ナッソー夫人。衰弱甚だし。4，怠る。2．心体寂寥極まりたり。7．7．ポリュビオスの原稿［古代ギリシャの歴史家ポリュビオスの『歴史』翻訳草稿と銘うったナポレオン誹謗書］。腑甲斐なくおじなき計謀（はかりごと）かな。嗚呼！あるべき計謀はかくはあるべからず。新生活設計。当地に三月独り暮す。有無は言わせぬ。

十九日　無為。人生，つまり我が人生，我に重くのしかかりぬ。奈何せん。新設計に少なからず心傾きたり。いぜんとして胸部ますます悪化す。想のいくつか分類す。

二十日　悪夜。想のいくつか分類す。あれ［スタール夫人］には勝手にやらせておく，こちらは今夏しばし自由の時を得んものと決意す。

二十一日　発信，ルスラン，フールコー，ドワドン，デュテルトル夫人。瞬時12へ復返(おちかえ)りたり。狂気の沙汰なるべし。1の処理法を講じて3，これぞ最善なる。4，少しく。悪夜。胸部痛。

二十二日（土曜日）　4，可。来信，ナッソー夫人。セヴリ結婚。『訴訟狂』［ラシーヌの喜劇］舞台稽古。さすがシュレーゲル，悲劇を演じさせれば喜劇的，喜劇を演じさせれば不景気顔ときたものなり！

二十三日　4，纔にして不可。2．2．自由!!

二十四日　来信，父，ドワドン，オシェ。不快感去らず，そは 2 の然らしむるところなり。『ザイール』上演。閉込められ裏でもがき苦しみ表には出てこぬ才能，プロスペールにあり。

二十五日　4，かんばしからず。ブルン夫人［独の文学者．娘イダを伴いスタール夫人の許に出入りす］宅で真夜中の上演。イダ，起居振舞に不思議な才を見せたり。

二十六日　4，はか行かず。相対して談。奪(と)らざれば人に奪られんという自由にもあらざれば，余が自由奪回の苦悶動揺は独り相撲とは言うべし。著作の興，再来。「銀行」の支店［フランス銀行改革案による支店設置計画］。余には「三分の一整理公債」に多額投資の計画あり。

二十七日　発信，ドワドン。これまで手掛けし著作のご多分にもれず今回も同じ過を犯したり。無くもがなの，しかも人から反論されるであろう「詳細」に突っ走るという過である。この種の「詳細」一切削除のこと。租税論，その一つなり。4，可。シェニエ［仏の詩人，論戦者．詩人として世に知られるは死後1819年のこと．革命時穏健派・反ジャコバンとして処刑．1762-1794］書簡集［ヴォルテール宛．弟のマリ・ジョゼフが1806年刊行］。傑作なり。ドゥ・シェニエ氏。奇妙な「混合」［メルキュール・ド・フランス誌（３月22日号）の記事に触れたもの：「ドゥ・シェニエ氏はマリ・ジョゼフ＝シェニエと同一人物であること，つまり三代の立法府にわたりリュクルコス（スパルタの伝説的立法者）とテュルタイオス（古代ギリシャの詩人）の二役を一身に具した同氏であること……］。

二十八日　悪夜。かくなれば病気恢復絶望的なり。ルイ十四世の『回想録』［回想録再刊の記事，メルキュール・ド・フランス３月15日号に載る］。専制主義の原理。発信，父。4，

悪くなし。来信，ナッソー夫人。余が身の上の幸福に触れたビュティーニの美辞。『ザイール』上演。初演よりも良し，これプロスペール好演のおかげなり。

二十九日　発信，オシェ，ナッソー夫人。来信，フーバー夫人。テレーズ。8. 8. 13. 4, 可。傍註は措くとして四月末前脱稿のこと。『嫉妬する病人』[デュパティ作．ヴォードヴィル風一幕物喜劇．スタール夫人のサロンで上演か]。なかなか洒落た小品劇なり。

三十日　悪夜，胸部痛，心体寂寥。2. 3. 8. 1をめぐる計画。世に在ること堪え難し。4, 徒労。

三十一日（月曜日）　4，復調。来信，ナッソー夫人。『フェードル』上演。スタール夫人見事に演ず。横腹激痛。今冬自然の余に対する仕打，情け容赦なし。晩餐，オディエ夫人［スタール夫人の友人］宅。即興詩と即興劇。その意気ごみやよしというも不調に終りたり。